

ヤツェック・クリムキエーヴィッチ **Jacek Klimkiewicz**



第1 ヴァイオリン

生まれ故郷のワルシャワでヴァイオリンをポーランドの名教師イレナ・ドゥビシュカに師事、若くして早くもウジコンクールにて1位。

ワルシャワ室内オーケストラの第1コンサートマスターを経てドイツ、フライブルク音楽大学にてヴォルフガング・マーシュナー氏に師事。

ダルムシュタット国立歌劇オーケストラ第1コンサートマスターを務めると同時にソナーレカルテットのプリマリウスとして活躍。

ラジオ、CD録音にてドイツ・レコード賞、パリ・レパートリー賞、レコード年間賞であるマイアミの1989年愛好レコード賞などを受賞。

1992年以来エッセンの Folkwang 音楽大学の教授として後進の指導をおこなっている。

2002年よりドイツのゼーハイム・ユーゲンハイムで行われている夏季国際音楽セミナーの音楽監督。

ソリスト、室内楽奏者として日本、ヨーロッパ、ヴェネズエラ等に招聘されている。

ラオレンティウス・ボニツ **Laurentius Bonitz**



第2 ヴァイオリン

ドイツの音楽家の家庭で育ち、ヴァイオリンをデトモルト音楽大学にて著名な教授ティボー・ヴァルガーの元で研鑽を重ね

ながら、師の室内オーケストラのマネージャーの仕事も託されオーケストラの発展に大きな力となる。

室内楽をライナー・モーク、カルテット・イタリアーノに師事。

ソナーレカルテットを結成し数々のレコード賞を受賞。

その活動を一時中断し1992年から1995年までヴッパータールシンフォニーオーケストラにマネージャーとして招聘され、

その後2006年まで連邦都市ボンのコンサートならびにベートーヴェンオー

ケストラのマネージャーを務め、数々のコン

サートや、フェスティバルを企画。

才能教育促進機関であるライン弦楽奏者アカデミーや、若い音楽批評家のためのロベルト・シューマン・スタジオを主催している。

小林秀子 **Hideko Kobayashi**



ヴィオラ

東京都出身の小林秀子は、桐朋学園音楽大学でヴァイオリンを久保田良作、石井志都子氏に師事し、卒業後ヴィオラ

の演奏への関心を抱きドイツのケルン音楽大学にてライナー・モークに師事し同大学を首席で卒業。

数々の国際コンクールにて賞を得て、ソナーレカルテットのヴィオラ奏者として活動しながら1989年ミュンヘン国際コン

クールにて最高賞を受賞。その後ドイツのマンハイム音楽大学のヴィオラ教授として招聘され現在に至りドイツ、韓国、イタ

リア、フランス、ヴェネズエラ等のマスターコースの講師として後進の指導

を行っている。

ソリスト、室内楽奏者と活躍している小林にドイツの作曲家ゲルハルト・シュテープラーから彼女に委託された作品、「ヴィ

オラとオーケストラのためのノートブック」を2004年に初演。

2007年にはニコラウス・A・フーバーからも「ヴィオラソロの為のEN」という作品を初演し絶賛される。

1990年より小澤征爾氏主催の、サイトウキネンオーケストラのメンバーとして毎年参加するなど、国際的なヴィオラ奏者として名前が知られている。
ピアノ

アンジェラ・シュヴァルツ **Angela Schwartz**



チェロ

アメリカ生まれのアンジェラ・シュヴァルツは、ミシガン大学でチェロをオリバー・エーデルに師事。

同大学を最優秀で卒業し、ヨーロッパに渡りドイツのデトモルト音楽大学で名教師アンドレ・ナバラに師事し首席で卒業。

その後ジュネーブにてピエール・フルニエに師事し研鑽を重ねる。

カサド国際コンクール、チャイコフスキー国際コンクール、ジュネーブ国際コンクール入賞後ソリストとして数々のオーケストラと共演。

ヨーロッパ、アメリカにて著名な音楽家達と共演し数多くのCD 録音を行う。

スイスのベルナー弦楽四重奏団のチェリストとして活躍、マックス・レーガーの弦楽四重奏全曲を録音しドイツレコード賞を受賞。

最近では現代曲も積極的に演奏を行い、多くの音楽祭にも招聘されている。

シプリアン・カツァリス **Cyprien Katsaris**



シプリアン・カツァリスは、1951年マルセイユ生まれのキプロス系フランス人ピアニスト兼作曲家である。パリ音楽院卒。1974年

ヴェルサイユでシフラ国際コンクール第一位受賞の他、1972年ベルギーのエリーザベト王妃国際音楽コンクールでは唯一の西

ヨーロッパ人受賞者となった。世界のオーケストラと著名な指揮者バーンスタイン、ロストロポーヴィッチ、ラトル、ミョンフン、デュトワ、

アーノンクール、ナガノ、コンロン、フェドゼーエフなどと共演している。

1992年、日本のNHKは、シプリアン・カツァリスと共同で、フレデリック・ショパンについてカツァリスによるマスタークラスと演奏を含む

番組を制作。1999年10月17日、フレデリック・ショパン没後150周年当日にカーネギー・ホールで開催された全曲ショパンプロ

グラムによるカツァリスのリサイタルでは、ニューヨークの聴衆から大絶賛をうけた。このリサイタルは音声および映像が記録されて

おり、「Piano 21」よりリリースされている。クロード・シャブロールとオスカー賞受賞者フランソワ・ライヒェンバッハの二人の著名な映画

監督が、シプリアン・カツァリスのライブ演奏の映画製作を手がけている。

2000年にフランス政府より「芸術文学勲爵士」を授与。また、2001年には「パリ市ヴェルメイユ・メダル」を授与された。録音は

テルデック、ソニークラシカル、EMI、グラムフォン、BMG-RCA、デッカなどで行い、現在は自身のレーベル「PIANO21」で録音を

続けている。スタンダードなレパートリーのほか、ユージン・オーマンディー指揮フィラデルフィア管弦楽団との共演で長い間不明だった

リスト作曲／チャイコフスキー編曲の「ハンガリー風協奏曲」を、またベートーヴェン作曲のバレエ「プロメテウスの創造物」の作曲家自身によるピアノ版やメゾソプ

ラノ歌手ブリギッテ・ファスベンダーやテノール歌手トーマス・モーザーとの共演でグスタフ・マーラー作曲「大地の歌」のオリジナルピアノ版などを世界初演として

録音している。2008年オリンピックでにぎわった北京で催された世界の10人のピアニストによるコンサートでは、10台のピアノのためのコンチェルトを演奏した。